

# 令和元年 第9回 多治見市教育委員会会議録

(要点筆記)

開催日時 令和元年 8月16日 (金) 午後 2時00分 開議

開催場所 多治見市役所駅北庁舎 4階 第3会議室

出席委員  
教育長 渡辺哲郎  
教育長職務代理者 木下貴子  
委員 中澤香代  
委員 前田市朗  
委員 大嶽和好

欠席委員 なし

教育委員会事務局・その他の機関の長等出欠表  
あらかじめ出席要請した管理職員

出欠	補職名	氏名	欠席理由
出	副教育長	鈴木稔朗	
出	教育次長	田中慎一郎	
出	教育総務課長兼 文化財保護センター所長	佐藤秀樹	
出	教育推進課主幹	東山学史	
出	教育研究所長	熊崎健一	

出欠	補職名	氏名	欠席理由
欠	昭和小学校近接校対応 調理場長兼大畑調理場 長兼共栄調理場長兼養 正小学校近接校対応調 理場長	松田直美	別会議 のため
欠	放課後児童健全育成事 業調整担当課長	伊藤香代	別会議 のため
出	教育指導主事	土屋美之	

上表欠席職員の代理出席者：なし

説明のため出席した者 : 企画部企画防災課課長代理 水野琢也  
教育推進課課長代理 大前健一  
教育総務課課長代理 山本元太郎

会議の傍聴人 : なし

会議を早退した者 : なし

会議の公開、非公開 : 一部非公開

**開 会**

午後 2 時00分 教育長が本日の委員会会議の開会を宣言

**議 事**

- 教育長 日程第 1、本会議の公開又は非公開の決定について、事務局に説明を求め  
る。
- 事務局 本日の会議については、「議第36号 多治見市教育委員会委員の任命につ  
いて」及び「議第37号 多治見市陶磁器等資料収集鑑査委員会委員の委嘱につ  
いて」は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第 7 項“人事・  
その他の事件”に該当するため、同項及び多治見市教育委員会会議規則第10  
条の規定により、非公開と決定することについて、審議願う。
- 教育長 事務局の説明のとおりは、「議第36号 多治見市教育委員会委員の任命につ  
いて」及び「議第37号 多治見市陶磁器等資料収集鑑査委員会委員の委嘱につ  
いて」は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第 7 項“人  
事・その他の事件”に該当するため、同項及び多治見市教育委員会会議規則  
第10条の規定により、非公開と決定することについて、異議はないか。
- 各委員 異議なし。
- 教育長 異議がないので、「議第36号 多治見市教育委員会委員の任命について」及  
び「議第37号 多治見市陶磁器等資料収集鑑査委員会委員の委嘱について」  
は非公開と決定する。

**議第33号 公開**

- 教育長 次に日程第 2、議第33号 平成30年度多治見市一般会計歳入歳出決算の認  
定のうち教育に関する事務に係る部分について、事務局に説明を求める。
- 佐藤教育総務課長 (平成30年度多治見市一般会計歳入歳出決算の認定のうち教育に関する事務  
に係る部分について、資料により説明)
- 教育長 大変細かい資料であるが、何か質問はあるか。
- 前田委員 関係資料 5 ページに奨学資金貸与事業費とあるが、これは我々が検討した  
給付型の奨学資金とは別のものか。
- 佐藤教育総務課長 奨学資金貸与事業費は、対象者 1 人に対して月額 2 万円を貸与している事  
業で、ご指摘のとおり給付型の事業とは別のものである。
- 山本教育総務課  
課長代理 関係資料 6 ページをご覧くださいと上から 4 番目に奨学資金給付事業費が  
あり、こちらが平成30年度から導入した大学生に対する給付型の奨学資金で  
ある。大学生に対する貸与型の奨学資金の制度は、給付型制度の開始に伴い  
廃止したが、平成29年度以前に貸与型の奨学資金の貸与決定を受けた方に対  
しては、大学の修学年数を経過するまでは毎年貸与することになる。これが  
5 ページの奨学資金貸与事業費である。
- 中澤委員 トイレの洋式化や I C T 関連の予算は、毎年計上されていると思うが、事  
業としては進んでいるのか。また、歳出決算状況に関する調べでは、全体  
の中で民生費が大きなパーセンテージを占めているが、教育費の占める割合は  
多治見市は他市と比較してどうなのか。
- 佐藤教育総務課長 トイレの洋式化については、これまでは修繕の際に洋式化するというやり  
方で行ってきたが、何分にも数が多いため、進んでいるとは言えなかった。  
後程説明するが、9 月議会の補正予算に、トイレの洋式化を大きく進めるた  
めの予算を提出する。
- I C T については、国がいわば指針を示しているが、その内容が毎年のよ

うに変わるため対応に苦慮している。それでも必要な機器は整備する必要があるため、毎年1億円程度を予算化していきたいと考えている。

第7次総合計画の後期計画が来年度から始まるが、その中で各教室に大型モニターを設置する事業を進めていきたいと考えている。国の指針は、各教室に1台設置ということなので、少しでも早く指針に追いつけるように手配をしていきたいと考えている。

中澤委員 私の主観であるが、ICTについては学校ごとに進み方に差があるように感じる。設備の配置を平準化する考え方はあるのか。

佐藤教育総務課長 これまでICT機器については市が配備していくもののほか、文部科学省の予算が付いて一部の学校に配備されたものや、PTAから寄附をいただいたものなどが混在しており、各学校でばらつきがあることは事実である。今後は先生が異動されても同じスペックの機器がどの学校でも使えるような環境を整えていきたいと考えている。

中澤委員 平成30年度は教育費の占める割合が13.79%ということだが、毎年これ位の割合なのか。

佐藤教育総務課長 例えば大きな工事があればその年度の教育費は大きくなるので、必ずしも割合が毎年一定ということはない。平成30年度は教育費の総額としては平成29年度より7%ほど増えている。

前田委員 土曜学習の費用はどこに載っているか。

鈴木副教育長 関係資料の7ページ中ほどに土曜学習講座実施事業費という名前で載っている。

前田委員 土曜学習の事業費は、毎年増えているのか。

熊崎教育研究所 現状では大きく増やすということは考えていない。

長 他に質問はないか。

各委員 なし。

教育長 他に質問もないので、「異議なし」として、原案どおり可決してよいか。

各委員 よい。

教育長 では、議第33号 平成30年度多治見市一般会計歳入歳出決算の認定のうち教育に関する事務に係る部分について、原案どおり可決することとする。

### **議第34号 公開**

教育長 次に日程第3、議第34号 多治見市教育に関する事務の職務権限の特例に関する条例の一部を改正するについて、事務局に説明を求める。

水野企画防災課課長代理 (多治見市教育に関する事務の職務権限の特例に関する条例の一部を改正するについて、資料により説明)

教育長 何か質問はあるか。

前田委員 今までは図書館及び公民館の事務は文化スポーツ課が行っていたが、今後は教育委員会が行うということか。

水野企画防災課課長代理 今までも文化スポーツ課が行い、今後も文化スポーツ課が行うということである。新旧対照表をご覧くださいと、現在は「文化に関すること」に「図書館及び公民館の設置、管理及び廃止に関すること」が含まれると考えて市

長が管理しているが、法律が改正されて「図書館及び公民館の設置、管理及び廃止に関すること」が新たに第1号として書かれるようになったため、第1号を根拠として市長が管理することになる。法律上の整理のみと考えていただければよいと思う。

中澤委員 多治見市では今、公民館や児童館の統廃合が行われていると聞いているが、具体的にはどのようなになっているか。

水野企画防災課課長代理 最近では精華公民館と本土児童館の統合があった。本土児童館が老朽化し、住民の方からも要望があったため、本土児童館の機能を精華公民館に移すということで、精華公民館は増築をし、子どもさんからお年寄りまで来ていただける精華交流センターとしたいと考えている。

まだ計画段階であるが、養正公民館と坂上児童館も、坂上児童館が老朽化しているため、養正公民館に集約することを、笠原地区においても笠原中央公民館、笠原児童館などを笠原中央公民館に集約することを検討中である。

教育長 他に質問はないか。

各委員 なし。

教育長 他に質問もないので、「異議なし」として、原案どおり可決してよいか。

各委員 よい。

教育長 では、議第34号 多治見市教育に関する事務の職務権限の特例に関する条例の一部を改正するについて、原案どおり可決することとする。

#### **議第35号 公開**

教育長 次に日程第4、議第35号 令和元年度多治見市一般会計補正予算（第2号）のうち教育に関する事務に係る部分について、事務局に説明を求める。

佐藤教育総務課長 （令和元年度多治見市一般会計補正予算（第2号）のうち教育に関する事務に係る部分について、資料により説明）

教育長 何か質問はあるか。

木下委員 トイレは今後洋式が増えていくと考えてよいか。

佐藤教育総務課長 校舎の両端に2カ所トイレがある学校が多く、そのうちの1カ所を洋式化していく工事の補正予算であり、洋式トイレを増やしていく。

中澤委員 学校のコピー機や印刷機なども老朽化しているものがあると思うが、更新はどうなるのか。

佐藤教育総務課長 コピー機はレンタルで入れており、一定の期間で新しいものと入れ替えが行われるはずなので、老朽化で使えなくなるといったことはないと思う。印刷機はほぼ買い取りなので、老朽化して使用できないといったことがあれば予算化をして更新をする。

中澤委員 学校によってカラーコピーができる学校とできない学校があると聞いたが本当か。カラーであれば資料がより分かりやすくなると思うが。

佐藤教育総務課長 本市の予算で配備しているコピー機はおそらくモノクロの同一のコピー機である。本市の予算とは別の予算でカラーコピー機を置いている場合があるかもしれないし、最近ではカラープリンターでもコピー機として使えるものもあるかと思う。カラーコピーができないから不自由だという話は聞いていない。

教育長 他に質問はないか。

各委員 なし。

教育長 質問もないので、「異議なし」として、原案どおり可決してよいか。

各委員 よい。

教育長 では、議第35号 令和元年度多治見市一般会計補正予算（第2号）のうち教育に関する事務に係る部分について、原案のとおり可決することとする。

**議第36号 非公開**

**議第37号 非公開**

**議第38号 公開**

教育長 次に日程第7、議第38号 平成30年度多治見市教育委員会の事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関する報告書について、事務局に説明を求める。

田中教育次長 （平成30年度多治見市教育委員会の事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関する報告書について、資料により説明）

教育長 何か質問はあるか。

木下委員 報告書21ページの巡回相談だが、医師も構成メンバーに入っていると思う。医学の専門的な知識があると対応もうまくできるのではと思うが、実際に医師の方も巡回相談に参加されているのか。

田中教育次長 毎回必ずではないが、可能な限り参加していただき、授業中の子どもの姿を見ていただいた。また、学校の先生と面談し、具体的なアドバイスもいただいた。

木下委員 基本的には全校回られたということか。

田中教育次長 幼稚園、保育園も含めて全校回っていただいた。

鈴木副教育長 報告書には4回と書いてあるが、4クールということである。すべての園と学校を4回ずつという訳ではないが、第1期から第4期までに分けて、複数回ずつ回った。

中澤委員 教育行政評価委員会からはどんな評価を受けているか。

大前教育推進課課長代理 教育行政評価委員会には年2回評価をいただいている。この報告書は、今年3月に原案を私たち職員が作り、教育行政評価委員会の皆さんから具体的に「ここが良く分からない」「こう書くべきでは」とご意見をいただき、そのご意見を加味して作り上げたものである。

鈴木副教育長 補足するが、今回は教育行政評価委員会から高い評価をいただいた。例年は報告書に施策がずらっと並べてあり、○×でそれぞれの施策ができたかできなかったかを表で現わすものが多く、学校の姿が見にくいという評価をいただいていた。今回は担当が工夫をしてくれて、とりわけ教育基本計画の3つの理念、自立、共生、自己肯定感を尺度として施策の進捗を測る形に変え

てくれて、学校の姿が見えやすくなったという評価をいただいた。

中澤委員 読書に関して伺いたい。小学生の時はよく本を読んでも、中学生になるとクラブや受験などで忙しくなり、読書量が減っていくという傾向があったと思うので、読書習慣の定着に力を入れていただいていることが大変嬉しいが、こうして行こうという方向性はどのようか。

熊崎教育研究所長 現在は読書活動推進計画の第2次計画に取り組んでいる。今まで「読みきり図書」として小学校で行っていたが、読破することが目的になりがちで、読破することが、本に慣れ親しむことにつながっていない実績もあった。

そこで、小学校ではいろんなジャンルの本に幅広く触れること、本に親しませる多読に力を入れている。中学校では時間がないため読書量が減ってしまいが、冊数などの量ではなく、関心のある分野の読みごたえのある本に挑戦させる指導をすることを考えている。

中澤委員 それはどういう風に行っていくのか。

熊崎教育研究所長 読書計画の指標としては指定図書の読破率があるし、中学校でも年間何冊本を読んだかという報告が上がってくるので、それに基づいて指導を行っている。

中澤委員 自己肯定感についてのアンケートを見ると、自分のよさをわかっている仲間がいると思う割合は高いのに、自分にはよいところがあると思う割合は低く、ちょっと矛盾した結果になっている。子どもの自己肯定感を高めていくにはどのようなことをすればよいのか。

鈴木副教育長 その点は私たちも議論をした点である。私たちの結論の一つは、自分にはよいところがあると思うという質問に、正直に答えることに面映ゆさを感じることもあるのではということである。

友達は認めてくれることに嬉しさを感じるが、自分では本当にそんなにいいところがあるのかなあと感じてしまうといったことがあるのではないか。

これを報告書の11ページには、「人間関係は良好だが、個にフォーカスした良さ見つけが弱い」とまとめて書いている。

連合生徒会でも、良さ見つけを中学校でも取り上げ、行動だけでなくその背後にある心情にも思いを向けるという活動をしている。

前田委員 報告書6ページに学力のことが載っているが、全体としてうまく行っているという評価なのか、それともまだまだという評価なのか。

熊崎教育研究所長 学力も体力も、学校が努力した結果だと評価している。全国平均を上回る、下回るだけで判断するといろいろ差が出てくるが、実際には100点満点で2、3点違うかといった程度の差である。全国学力・学習状況調査は、小6、中3の定点の調査でそもそも調査対象の集団が違うので、一概に年度が変わって大きく成績が伸びたと言えるかは少し疑問がある。

前田委員 報告書の表だけを見ては、今の説明のような考え方は分からない。紙面が限られていることは理解するが、今まで施策としてやってきたことが全体として良い成果につながったのかどうなのかがもっと分かり易いと良いと思う。

木下委員 私も多治見市の教育の良いところについて、もっとはっきりと分かる表現があってもいいと思った。先生方は多治見市の教育のどの部分が良いと考えているのか。

鈴木副教育長 私は、教育基本計画の理念となっているインクルーシブ教育という考え方で先生方が子どもたちを見ること、それを共有できていることと、最適な学びの場をどう作っていくか、巡回相談で現場を支えていく仕組みがあること

が多治見市の教育の良いところと思っている。

中澤委員 外国籍の子どもたちも増えていると思うが、どのように学校では対応されているかお聞きしたい。

田中教育次長 25ページに外国籍の児童生徒の支援についてまとめてあるが、NPO法人可児市国際交流協会に依頼して、支援員や相談員を派遣してもらっている。外国籍の子が転入してくると相談員が支援の方法や手続について親御さんと相談し、その結果によって学校に支援員を派遣してもらおう。取り出しと言って、別室で日本語の勉強を1日1、2時間ほど行くと、6カ月程度でかなり話せるようになる。

大前教育推進課課長代理 実際には多治見市にキーパーソンとなる方がいらっしゃる。彼女は単に通訳をするだけではなく、この子がこれから日本で生きていくために何が必要かという視点で結構厳しいことを子どもたちに言ってくれると聞いている。この夏休みも個別に勉強会をしてくれているが、その理由は夏休みで学校に行かないと日本語を忘れてしまうことを防ぐためということで行っていた。

教育長 他に質問はないか。

各委員 なし。

教育長 特に質問もないので、「異議なし」として、原案どおり可決してよいか。

各委員 よい。

教育長 では、議第38号 平成30年度多治見市教育委員会の事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関する報告書については、原案のとおり可決することとする。

教育長 次に、教育委員会会議の12月の開催日程について諮る。

教育長 12月18日（水）午後2時からとする。

教育長 これにて令和元年度第8回教育委員会会議を閉会とする。

閉 会 午後3時19分